

当院で行っている先進医療の紹介-第2報

2024年12月11日

子宮内膜刺激術-子宮内膜刺激移植法（SEET法）

生殖補助医療における反復不成功例のなかに、形態良好胚を移植しているにもかかわらず妊娠にいたらない着床不全症例が存在します。

近年、胚培養液上清には子宮内膜胚受容能促進に関与する胚由来因子が存在することが報告されています。そこで、胚培養液上清を子宮腔内に注入することにより子宮内膜が刺激を受け、胚受容に適した環境に修復される可能性があると考え、胚盤胞移植に先立ち胚培養液上清を子宮内に注入する方法が考案されました（子宮内膜刺激移植法-SEET法）。

体外受精により作出された受精卵を体外で5～6日間培養し、得られた胚盤胞は一旦凍結保存します。この際に体外培養に使用された培養液を、胚盤胞とは別の容器に封印した後に凍結保存しておきます。この培養液の中に、受精卵が成長する過程に排出される伝達物質が含まれていると考えられています。これを胚盤胞移植の2～3日前に融解し、子宮内に注入する方法がSEET法です。

当院では令和4年4月1日より先進医療で本法を行っています。2回以上の反復体外受精・顕微授精不成功の方に実施した、最近1年間の有効率（胎嚢確認による妊娠率）は69%でした。

SEET法は簡便で副作用もなく、胚盤胞移植と比較して妊娠率・着床率が高くなるため、臨床的に有用な移植法となりうると考えています。